

現代アートで遊ぶ —画力不要のアート—

Enjoy Contemporary Art
—The art of drawing and painting skills—

池 上 奨 (人間科学部こども学科・教授)

Susumu IKEGAMI (Faculty of Human Sciences, Department of Child Study, Professor)

〈要旨〉

アートの世界では1960年代、70年代に独特な芸術のジャンルが生まれ、極めて独創性に富んだ時代が到来した。それはまた、この時代の芸術界に鋭い亀裂をつくり、「大衆的な文化」と「生真面目な文化」の溝を広げることになった。旧来の絵画や彫刻のジャンルから遠ざかるにつれてアッサンブラージュの作家達は捨てられたものや廃品を箱、独立した構造物、或いはインスタレーションに集め、ごちゃ混ぜの3次元造形を創出した。それは、その本来の属性から離れた新しい文脈の中に置かれたものであった。⁽¹⁾

21世紀の現代、半世紀前のアートが美術系ではない普通大学の学生達により、画力不要の技法を使い、どの様に表現され、尚且つ、社会の縮図である、駅のコンコースに展示するとによって、何が起こるのであろうか。興味深い。

〈キーワード〉

アッサンブラージュ、普通大学、画力不要

1 初めに

2008年から2016年までの9年間、学生達と「オープンピアッツァ」と名称した、多くのアートプロジェクトを手掛けてきた。

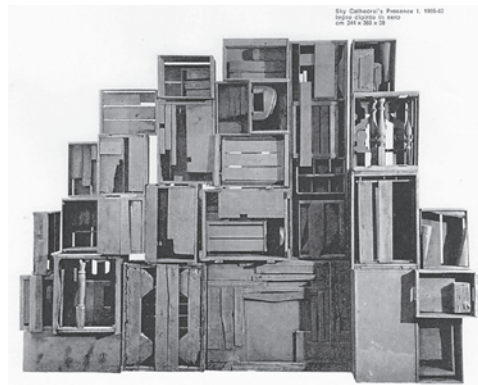
今回紹介するのは、2016年に行われたSeryo Street企画×オープンピアッツァ、地域活性化サポートプロジェクトin東金沢駅。東金沢駅コンコース壁面製作「思い出をつめこもう」である。

この企画は金沢星稜大学の若手事務局員が企画運営を行っている Seiryo Street企画より、池上フィールドに東金沢駅のコンコースで行われている地域活性化サポートプロ

ジェクトに何かプランはないかとの打診があった事が始まりである。

東金沢駅コンコースの壁面は逆三角形の壁面で一辺5メートル、高さ3メートル、全体で約20メートルの巨大壁面であった。

筆者は現場の東金沢駅に行き、壁面を眺めながら、思いついたプランが、ルウイズ ニーベルス⁽²⁾が行っていたアッサンブラージュであった。アッサンブラージュ⁽³⁾とは「寄せ集め」「組み（継ぎ）合わせること」を意味する仏語である。雑多な日用品や工業生産品、廃物などを寄せ集める手法、或いはその作品の事を指すものである。



彼女は捨てられた家具の様な日用品の廃物などを集め、これらを切り刻んで黒く塗り、黒い箱の中に入れて寄せ集めた作品を製作した。椅子の脚やベッドの枠、野球のバットなど、黒く塗って箱の中に寄せ集められた日用品の残骸は箱の中で影を作り相互に作用する。更に黒い箱は中身を表にして上に積み重ねられ、祭壇のように壁に立て掛けられる。現代風に言えば、インスタレーション⁽⁴⁾、及びミクストメディア⁽⁵⁾であろうか。

今回、普通大学の学生達が行うアクティブラーニングとして打って付けではないかと思われた。更に、東金沢駅のような不特定多数の人々が利用する施設ではどの様な反応があるのか確認したかった。

1 材料と方法

厚さ9ミリのコンパネを使用。

幅150ミリにカットし、大小様々な大きさのボックスを160個製作。

四季を意識した色を塗る。

春、ピンク、夏、ブルー、秋、オレンジ、冬、ホワイト。オブジェが、ある季節（色）に集中すると予想されたのでくじ引きとした。

金沢星稜大学の近隣の小学校、金沢星稜大学付属幼稚園などにフライヤーを配布した。小坂小学校では校長先生にお会いしコンセプトを説明し各クラス配布して貰うよう、お願いした。



2-2 製作1

金沢大学付属特別支援学校中等部での製作

東金沢駅は誰もが使う公共の場所である。そこで障害のある子供達にも参加して貰いたいと考え、金沢大学付属特別支援学校中等部の谷真理子主事に製作参加をお願いし、受けて貰う事が出来た。製作当日、各自がそれぞれ選んだ箱に思い思いの物、それは人形であったり、コルクや割りばし、積み木、車やキャラクターなどを、構成を考えながら張り付けた。中等部とはいえ、補助の先生が付いていないと中々、出来ない様子であった。

製作したボックスオブジェを金沢星稜大学に持ち帰り、学生達に、このボックスオブジェに色を塗って仕上げて貰った。



2-3 製作2

東金沢駅ボックス取り付け

7月2、3日製作したボックスオブジェを金沢星稜大学から東金沢駅コンコースに運び、壁面に取り付け作業を行った。ゼミ生2、3、4年生、美術部の学生、大学職員スタッフなど大掛かりな設置となった。



2-4 製作3

金沢星稜大学での幼児児童対象の製作

7月5日、午前、生憎の雨の為、当初、予定していた駅前の公園から、星稜大学ピアツア工房造形室に変更となった。幼児や児童、保護者の皆様、約50人は持ってきた思い出の品に楽しそうに色を塗っていた。スタッフの皆さんにも「思い出の品」に色を塗って貰った。



2-5 製作4 取り付け



2-6 完成



3 Seiryō Street企画 地域活性化サポートプロジェクトin東金沢駅（夏の作品巨大オブジェ）アンケート結果展示期間：7月3日（日）～7月29日（金） 撤去：7月29日（金）

経営企画課 河崎健一郎氏制作

3-1 アンケート

問1 性別				
No.	項目	件数	(全体) %	(不明を除く) %
1	男性	25	40.3%	40.3%
2	女性	37	59.7%	59.7%
0	不明	0	0.0%	0.0%
(合計)		62	100%	100%
(合計) 不明を除く		62		

問2 年齢				
No.	項目	件数	(全体) %	(不明を除く) %
1	19歳以下	35	56.5%	56.5%
2	20代	5	8.1%	8.1%
3	30代	4	6.5%	6.5%
4	40代	4	6.5%	6.6%
5	50代	3	4.8%	4.8%
6	60代	11	17.7%	17.7%
0	不明	0	0.0%	0.0%
(合計)		62	100%	100%
(合計) 不明を除く		62		

問3 夏の展示作品について				
No.	項目	件数	(全体) %	(不明を除く) %
1	とても良かった	33	53.2%	54.1%
2	良かった	11	17.7%	18.0%
3	どちらともいえない	9	14.5%	14.8%
4	良くなかった	8	12.9%	13.1%
0	不明	1	1.6%	1.6%
		62	100%	100%
(合計) 不明を除く		61		

問4 問3でそう思った理由	
No.	回答
とても良かった理由	
1	彩りが良かった。
2	カラフルでお洒落だった。
3	お洒落だった。
4	色とりどり
5	色4色組に色々と創造させる楽しみがある。
6	製作に参加して、塗っている時より乾いた後の方がより彩りがくっきりで素敵。
7	可愛らしいものがあって懐かしい思い出を思い出せた。
8	昔を思い出す。
9	四季に応じて色分けしてあって良かった。
10	色鮮やかで駅の雰囲気が若返った様に思いました。
11	ピンクや水色、オレンジがかわいかった。
12	ピンクや水色がかわいかった。
13	不思議な感じがした。
14	電車を待つ時間を楽しく使えたから。
15	面白かった。
16	縫いぐるみが可愛かった。
17	模型が可愛かった。
18	建築物に合わせてもこんなに綺麗な作品が出来ることに感心した。
19	池上先生の作品だから。
20	素晴らしい、頑張って今後も創作下さい。
21	賑やかになったから。
22	暗い印象の駅だったのが、とても明るくなって良いと思いました。 これからも盛り上げて行って欲しいです。
23	皆の思い出の品が芸術作品になっていてステキ。
24	自分の好きな物を塗れたから。
25	色彩が人を引き付けている→各棚を覗いて見たい気にしてくれる→更に何だろうと考える→連想させてくれる→答えは謎のまま帰路につきました。
26	私はシネママニアの一人だから、スターウォーズシリーズも在ってとても良かった。
27	明るくなった気がした。
28	本当の色とは違うものでカラフルに見えて元気が出た。
29	駅中に大きなオブジェがあると華やいだと感じた。
30	目を引く。鮮やかさが良かったです。
31	絵になります。何処かの美術館に来た気分。

良かった理由	
1	微笑ましい。
2	何と無く。
3	独創的で面白い。
4	ちょっとペンキが剥げてかっこ悪い。
5	両側に展示あれば尚良し。
6	地域の活性化に若者の参加が嬉しい。
7	カラフルで華やかなイメージ。
8	ペンキで赤、青、黄（橙）、白で塗ってあるから。

どちらとも言えない理由	
1	あまり目に入らなかった。
2	この駅にあわない。
3	目がチカチカした。手づくり感が大きい。
4	今一、テーマである四季感が感じられなかった。
5	大事な物に色づけているのはいいのかなと思う。
6	縫いぐるみに色を塗るのはちょっと。キティちゃんが可哀想。
7	凄いと思ったが、ものが勿体無い様に感じた。
8	もう少し説明して欲しい。
9	数が少ない、季節感が無い。

良くなかった理由	
1	目がチカチカする。
2	思い出の物を、色を付けてちょっと引いた。
3	白色は良いのですが他の色がどぎつくて、夏の暑い季節に不向き。 もっと清涼感のあるパステルにしては？
4	芸術とは言えない程の雑さ、恐怖すら感じる。
5	色塗りが雑、怖い。
6	思い出の物に、色を吹き付けて、何がテーマですか。 何が言いたいのか。
7	暑苦しい、冬の方が良かった。

3-2 アンケート結果

今回のプロジェクトに約7割の人達が良かったと言ってくれた。半世紀前のArtがディスプレイとして現代の生活空間に反映されていると考えられた。

しかしながら、1.3割の人達は辛辣であった。

少なからず、ショックを受けた学生もいた様である。

正に「大衆的な文化」と「生真面目な文化」の溝が現れているように思われた。

ニーベルスはかつて自分の作品について、「他の人達

の捨てた物でも、拾って来て組み合わせると、それらの物が本当の生命を得ることが出来る。元、使われていた時の生命を超えた、精神的な命を。」と述べている。

このコンセプトをしっかりと表示すれば多少の意見も変わったかもしれない。

現代の人々はインダストリアルデザイン化された都市空間に住んでいる。今回の公共空間でのDIY的な手作り感覚に違和感を感じる人も少なくない様に思われた。

4 現状

東金沢駅から撤去製作された作品は、金沢星稜大学事務局長（現在の副学長）の御厚意により金沢星稜大学2階エントランスの回廊に移された。2018年5、6月には金沢星稜大学付属星稜幼稚園の幼児と保護者の皆さんとでアクティビティを行い、完成度を高めた。



5 考察

筆者が人間科学部こども学科に赴任して、驚いた事は美術が嫌いという学生のあまりの多さだった。

彼らがこのまま小学校教員になったら一体どうなってしまうのだろう。尋ねてみると、小学生の頃、上手く出来なかった、時間内に出来なかった、他の人と比較され嫌な思いをした、などであった。これは世の中が「大衆的な文化」化されているのに、学校教育では「生真面目な文化」が行われているからではないであろうか。

小学校の授業の中にジャクソン・ポロックが行ったドリッピングなど抽象表現を取り入れているにも拘わらず、である。和久洋三先生もおっしゃっている様に「こどもはみんなアーティスト」の気持ちを持たせるにはどうしたら良いのか。そこで、考えた末、アッサンブラージュを取り入れた。これは画力をともなわなくても良いアートスタイルである。今回はスケールが大きかったので、普通大学の学生には荷の思い処もあったかもしれない。しかしながら、プロジェクトをやり遂げる事で自信をつけ、子供達に楽しい図工の事業を行って貰う事を節に願うものである。

引用・参考文献

- | | |
|---|---------------------------------------|
| (1) 2009 ART世界の美術
p551 アッサンブラージュ, ジャンクアートランド・アート | (2) 2009 ART世界の美術
p555 ルイーズ・ニーベルスン |
|---|---------------------------------------|